

令和 2 年 6 月 26 日現在

機関番号：35307

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03082

研究課題名(和文) 中世瀬戸内海地域における寺社縁起の比較構造論的研究

研究課題名(英文) Comparative study on Historical story of Buddhism temples and Shinto-shrines around Setouchi marine

研究代表者

苅米 一志 (KARIKOME, Hitoshi)

就実大学・人文科学部・教授

研究者番号：60334017

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：瀬戸内海地域に所在する寺社の所蔵する中世の縁起資料を収集し、その読解を進め、共通する諸要素を抽出した。特徴的な要素として、観音信仰、河海における水害の救済、竜王・竜宮との関係、女人信仰、大和国長谷寺・山城国清水寺・近江国石山寺の観音との系譜関係などが挙げられる。こうした諸要素の比較の結果、これらが共通して語られる背景として、盛んな舟運を利用して観音信仰を伝播させた僧侶の存在、観音を本尊とする寺院に対する民衆の遊歴・巡礼・参詣などの現象を指摘することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

瀬戸内海地域において、観音を本尊とする寺社が圧倒的に多い理由を解明することができた。その理由は、経典に記載された観音菩薩の性質を期限とし、河海沿岸における水害を救済するものとして観音が希求されたこと、観音の化身や眷属として竜王・竜女・弁財天などが想起されたこと、さらに敷衍して「この世において、人間をそのままの姿で救う」という性格が強調され、南北朝期以降は中央・地方の武士階級においても観音への信仰が高まったこと、結果として観音を本尊とする寺社への参詣・巡礼のルートが形成されていったことなどを挙げることができる。

研究成果の概要(英文)：The researcher collected and analyzed the legends or scroll pictures possessed by Buddhist temples and Shinto shrines around Setonaikai Sea in order to pick up several common elements among those tales. The characteristic elements are worship for Kannon Buddha, relief of flood damages by Buddha, relationship between Kannon and Dragon king who lived in deep sea, worship by women for Kannon, the origin of those tales from Hase-dera temple (Nara prefecture), Kiyomizu-dera (Kyoto city), Ishiyama-dera (Shiga prefecture) and so on. From the comparison among these elements, the researcher concluded that there had been many monks who propagated worship for Kannon Buddha by shipping and many people visited various temples and shrines around Setonaikai Sea.

研究分野：日本中世史

キーワード：日本中世 瀬戸内海 寺社縁起 観音信仰 舟運

1. 研究開始当初の背景

中世における寺社縁起については、主として国文学の分野において分析・研究が進められてきた。歴史学分野における研究史はまだ浅く、これには歴史学の得意とする年代比定が、寺社縁起を対象とした場合には必ずしも生かされず、また寺社縁起が歴史上、何度も書き改められてきた、という背景がある。つまり、時間軸における一回性を重んじる歴史学にとって、寺社縁起は方法論的にも甚だ不向きな研究対象だったのである。しかし、「宗教テキスト体系（宗教を表現する媒体の相互関係を通して宗教の全体像を理解するための方法論と視角）」という概念が提唱されると、歴史学の側からも寺社の宝蔵などに保管されてきた経典類などとともに、寺社縁起の重要性が意識されるようになった。特に日本中世史の研究者による乗り入れは盛んであり、その中で古文書も含む貴重な文献資料の発見も相次いでいる。歴史学による寺社縁起研究は、古文書史料だけでなく建築・神仏像・法具・経典などの存在を踏まえた上で、「宗教テキスト」という文脈に置いて研究されるべき段階に至っている。寺社縁起は「歴史的事実関係はひとまず措き、歴史的存在としての宗教者が、何を語ろうとしたのか」を解明する素材として定置されつつある。

2. 研究の目的

上記の背景を受けて、本研究においては、従来から応募者が研究の対象としてきた瀬戸内海地域において、広く寺社縁起を収集・整理し、それらに現れる構成要素と話型を抽出して比較する。これにより、構成要素の源流がどこにあり、またどのような過程を経た上で他地域に伝播し、また現実の歴史のどの部分を取り込んだ上で縁起が形成されるかを考察する。以上の作業と考察の上で、当該地域における宗教の伝播・影響関係、国・郡レベルを越える地域における宗教の動態と秩序を明らかにしたい。

3. 研究の方法

- (1) 既に進めつつある瀬戸内海地域（山陽地方および愛媛・香川県）の自治体史料の網羅を行ない、活字化された寺社縁起についての情報を目録化する。
- (2) 各地域における博物館・資料館と連携し、寺社の宝蔵に保管される未整理の寺社縁起の撮影と翻刻を行なう。その際に、古文書など他の資料についても調査を進める。
- (3) 歴史学的方法論、特に古文書学的な観点から、縁起の外形的事実を確定する。また、翻刻を経た上で、縁起の文章の読解（注釈づけ）を進め、公開を目指す。
- (4) それぞれの縁起から、構成要素と部分的挿話を抽出し、全体の筋の構造を把握した上で比較を行なう。類似部分が見られる場合は、その原因と背景を探るべく、当該寺社の古文書資料を読み込み、伝播・影響関係を推定していく。

4. 研究成果

- (1) 瀬戸内海地域における寺社縁起を収集し、その読解を進め、縁起における構成要素を抽出して比較・対照を進めた。具体的には、兵庫県・岡山県・香川県・広島県を中心として、活字刊本の他、原本や写真などの確認を進め、上記の史料を踏査した。
- (2) その中で、瀬戸内海地域における寺社縁起においては、観音菩薩にまつわる信仰が突出していることを

確認し、さらにそれに関わる諸要素として、河海という立地条件、竜宮・竜王といった眷属、竜・蛇の出現、暴風雨や洪水に対する救済、女人信仰の対象としての観音といった表象を抽出した。縁起のストーリーとしては、武士や女性など篤信者による観音への信仰と寺院の建立、本尊による現実的救済、舟運を通じた他地域への信仰の伝播、大和長谷寺・山城清水寺・近江石山寺の観音との関係、僧侶の移動による観音巡礼のルートの形成などを指摘することができた。

(3) 南北朝期における合戦においては、観音信仰は重要な役割を果たしており、備後国尾道浄土寺などを中心として、足利氏・北朝による勝利の予兆をなした仏菩薩として信仰される傾向があることを推測しえた。

(4) 以上の成果は、就実大学吉備地方文化研究所編『吉備地方中世古文書集成(2) 備前安養寺文書』(吉備地方文化研究所、2019年)、「中世『地方寺院文書』の形成」(中山一磨監修・落合博志編『寺院文献資料学の新展開5 中四国諸寺院』(臨川書店、2020年)などとして結実し、いずれも公刊を遂げている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 苅米一志	4. 巻 33
2. 論文標題 西国における曾我氏の所領と文書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 就実大学史学論集	6. 最初と最後の頁 73-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 苅米一志	4. 巻 84
2. 論文標題 明応年間における備前西大寺の復興造営	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 古文書研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 苅米一志	4. 巻 32
2. 論文標題 「三輪上人行状」の形成と行状	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 就実大学史学論集	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計3件

1. 著者名 就実大学吉備地方文化研究所（苅米一志・解説）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 就実大学吉備地方文化研究所	5. 総ページ数 155
3. 書名 吉備地方中世古文書集成（2） 備前安養寺文書	

1. 著者名 苅米一志他（就実大学吉備地方文化研究所）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 221
3. 書名 人文知のトポス（執筆担当：禅律仏教における「意識」と実践）	

1. 著者名 中山一麿監修・落合博志編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 401
3. 書名 寺院文献資料学の新展開 第5巻 中四国諸寺院	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----